



喜多流自主公演

平成三十一年一月

平成31年 1月6日(日)

12:00 開演 (11:00 開場)

十四世喜多六平太記念能楽堂

料金:全席指定(税込)

S席 9,000円 A席 8,000円 B席 7,000円

C席(1階杖敷席) 6,500円 D席(2階席) 6,500円

学生席(2階席) 2,500円 (25歳以下、要学生証提示)

- ・午前11時15分より、本舞台にて当日の演目の解説をいたします。お気軽にご参加ください。
- ・当日券をご用意できる場合は午前10時45分より発売いたします。

主催:公益財団法人 十四世六平太記念財団

協力:喜多流職分会

後援:品川区、品川区教育委員会

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会



山高

姥砂

金子敬一郎 友枝雄人

チケット予約購入のご案内

インターネット

喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>
(24時間対応、要登録・無料)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

② 喜多能楽堂事務局 窓口

クレジットカードでお支払いの上(ホームページでのweb決済)、ご予約の際に画面に表示された番号を窓口にご提示いただき、チケットをお受取りください。現金でのお支払いはできません。

電話予約

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上、チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

② 郵送

チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振込みください。入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

③ 喜多能楽堂事務局 窓口

ご予約の際お伝えした番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金のみとなります。

窓口

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

お支払いは現金のみとなります。

※お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。
ご予約の際ご案内いたします。
※平成30年度公演の後半5回分は発売中です。
※ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

ご注意

- ・開演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・ロビー・見所でのご飲食はできません。2階ラウンジをご利用ください。
- ・喜多能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。コインロッカーもご利用ください。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

喜多流自主公演年間優待券

5枚綴り 35,000円

- ◆ご希望のどの席種でもお選びいただけるお得な年間優待券です。
- ◆お求めは喜多能楽堂事務局まで。各喜多流職分でも承ります。
- ◆ご観能の際は別途、座席指定券をご予約ください。
 - ・追加料金はかかりません。
 - ・ご予約は、インターネット、電話、窓口で承ります。
 - ・年間優待券のみでの観能はできません。
 - ・ご入場の際は、年間優待券と座席指定券をご提示いただきます。
- ◆ご利用は、表記年度中(4月～3月)の喜多流自主公演のみ有効です。青年能には使用できません。

自主公演観客席御案内



S席	9,000円	C席(1階杖敷席)	6,500円
A席	8,000円	D席(2階席)	6,500円
B席	7,000円	学生席(2階席)	2,500円

会場案内図



JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分。
目黒駅西口よりドレメ通りを直進。杉野学園体育館手前を左に入る。
※当能楽堂は駐車場施設がございませんので、お車でのご来場はご遠慮願います。

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9

TEL: 03-3491-8813 FAX: 03-3491-8999

喜多能楽堂ホームページ: <http://kita-noh.com/>

素謡

翁

友枝昭世 中村邦生

友枝雄太郎
粟谷能夫
香川靖嗣
長島茂
佐藤章雄

能

シテ連老 佐藤寛泰

後シテ住吉明神
前シテ老翁

友枝雄人

高砂

ワキ神主友成 殿田謙吉

ワキツレ従者 舘田善博

ワキツレ従者 梅村昌功

アイ高砂の浦人 金田弘明

大鼓 柿原弘和
小鼓 田邊恭資

太鼓 梶谷英樹
笛 一噌隆之

後見 内田安信
谷 大作

地謡 谷友矩
佐々木多門
栗谷浩之
友枝真也

高林呻二
中村邦生
大村定
長島茂

休憩(二十分)

人間川

シテ大名 三宅近成

アト太郎冠者 三宅右矩
アト人間何某 高澤祐介

狂言

仕舞

草紙洗小町

粟谷能夫

地謡 狩野祐一
内田成信
長島茂
大島輝久

休憩(十分)

能

シテ連遊女 金子龍晟

後シテ山姥
前シテ里女

金子敬一郎

山姥

ワキ遊女従者 御厨誠吾

ワキツレ従者 則久英志

ワキツレ従者 野口琢弘

アイ境川の里人 前田晃一

大鼓 原岡一之
小鼓 鵜澤洋太郎

太鼓 小寺真佐人
笛 槻宅聡

後見 塩津哲生
高林昌司

地謡 佐藤陽
大島輝久
栗谷充雄
塩津圭介

内田成信
粟谷明生
出雲康雅
狩野了一

終了予定時刻 四時二十分頃

高砂(たかさぎ)

阿蘇の宮の神主友成が、都に上る途中に高砂の浦に立ち寄った。そこで、松の木陰を掃き清める老夫婦に出会い、「高砂の松」のいわれを問う。老夫婦は、「古今和歌集」の序に「高砂住の江の松も、あひおひのようにおほえ」とあり、ここから遠い住吉の松と合わせて「相生の松」と呼ばれると教える。そして今の世に和歌の道が栄えるのは万物に歌の心が宿り、ことに松はめでたいものであるとの由緒を語る。そして実は自分たちは住吉と高砂の神であるとあかし、住吉で待つと言いつつ船で去って行く。(中入)

友成はこの夫婦の話を浦人に尋ね、船を借りて老夫婦の後を追いつつ吉の浦へ着く。すると住吉明神が現れ、颯爽と舞を舞って、長寿と平和を祈る。

(約九十分)

人間川(いるまがわ)

長らく在京していた大名は召使い(太郎冠者)を伴って故郷へ帰る途中、大きな川に行き当る。通りかかった男(人間の何某)に川の名と渡り瀬を問うと、男は「この川は人間川で、川底は深いから浅瀬はない。」と答える。すると大名はこの地方に流行る《人間様》で答えたものと思い、川を渡り始めて深みに嵌りずぶ濡れとなってしまう。『人間様(いるまよつ)』とは、中世の人間地方で用いられていると都に伝わった《逆さ言葉》のお遊びで、物事をすべて反対に云い表わす。

(約二十五分)

山姥(やまんば)

山姥の山巡りする有様を謡う百魔山姥と呼ばれる遊女が、信濃国善光寺へ参詣のために従者とともに都から越後国の境川に着く。従者は境川の里人に善光寺の参道を尋ねて、上道、下道、上路越の三つのうち、険しい上路越を選ぶ。山に登るとまだそれほど遅くない時間なのに、にわかには日暮れ夜になる。そこに里女が現れて、山中の自分の庵に宿案内をする。一行が庵に到着すると、里女は自分が山姥であると明かし、自分を題材にした山姥の曲舞を謡うように所望してくる。遊女が謡おうとすると、月の出る頃に真の姿を現して舞を舞うといつて姿を消す。(中入) やがて夜になると鹿背杖をつきながら異様な姿の山姥が現れ曲舞の謡に合わせて舞を舞い、本当の山廻りの様を見せ、山から山へと巡って姿を消すのであった。

(約一〇〇分)

平成三十一年一月自主公演番組予告

平成三十一年二月二十四日(日) 正午始
十四世喜多平太記念能楽堂

田村 佐藤寛泰
湯谷 佐々木多門
綾鼓 中村邦生